

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 36 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	令和 7 年 8 月 8 日 (金) 午後 3 時から午後 4 時 20 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出席者氏名	<p>出席委員：村林守会長 秋山由美委員、岡山慶子委員、門暉代司委員、 齋藤都委員、松浦信男委員、三井高輝委員、 米山哲司委員、渡邊幸香委員</p> <p>欠席委員：梅村光久委員、小野崎耕平委員、高島信彦委員、 西川明樹委員、西村訓弘委員、平岡直人委員</p> <p>事 務 局：竹上市長、近田副市長、永作副市長、藤木企画振興部 長、林企画振興部経営企画課長、小川企画振興部経営 企画課政策経営担当主幹、上村企画振興部経営企画課 政策経営係長</p>
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人 (内、報道関係 1 社)
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

- ・ 議事録は別紙のとおり

第36回総合計画等評価委員会 会議録（要旨）

1. 日 時 令和7年8月8日（金） 午後15時00分～17時00分
2. 場 所 松阪市役所 議会棟 2階 第3・4委員会室
3. 出席者 秋山由美委員、岡山慶子委員、門暉代司委員、齋藤都委員、松浦信男委員、三井高輝委員、村林守委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員

※欠席：梅村光久委員、小野崎耕平委員、高島信彦委員、西川明樹委員、西村訓弘委員、平岡直人委員

〔事務局〕

近田副市長、永作副市長、藤木企画振興部長、林経営企画課長、小川政策経営担当主幹、上村政策経営係長

4. 主な資料

- ・ 事項書
- ・ 福祉まるごと相談室・生活保護件数の推移について
- ・ 市民を支える諸施策について
- ・ 女性起業家等のつながり交流創出事業について
- ・ キャッシュレス・商品券まとめ
- ・

〔事項〕

- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
諸施策について
- 4 その他

【会議録】

1 新任委員の委嘱

秋山委員より、産後ケアやダブルケア支援を行ってきた自身の経歴を紹介。「現場の母親の声を聞きたいという市長の言葉に応えたい」と述べられた。

2. 市長挨拶

市長より、高校野球の「タイブレーク導入」や「熱中症対策の措置」等を例に、「伝統とは変革と共にある」という不易流行について述べられた。また、市内でのクマの出没新米価格の大幅な上昇といった地域課題に触れ、本日の議題である「市民生活を支える諸施策について」市民生活を守るための活発な議論を求められた。

3. 協議事項：市民生活を支える諸施策について

市長説明

- ・市内に福祉まるごと相談室（以下「まるごと」）の設置を進めている。今般、鈴の森・阿坂・伊勢寺地区のまるごとを設置し、民生委員休日も対応するサポートセンターも併設する。
- ・まるごとの相談実績は高齢者が中心であり、子育て世代へリーチするために無料オムツゴミ袋配布等のアウトリーチを試み、まるごとの存在を知ってもらいたい。

委員、市長意見交換

(1) 福祉まるごと相談室など

- ・「相談室」という名前だと「福祉に特化した場所」と思われ、子育て等の小さな困りごとで相談しにくい。名称を「くらし丸ごと」等、柔らかくしてはどうか。
- ・「相談」という言葉自体がプライドの高い男性などにはハードルが高い。「サポートセンター」という言葉の響きは良い。世間話や趣味活動の場を入り口にしてはどうか。
- ・相談の現場では、健康相談には気軽に来るが、福祉相談は避ける傾向がある。まずはスタンプラリーや趣味の場などを経由して信頼関係を作る工夫が必要。
- ・先行しているまるごとでは、地域のイベントに顔を出して「顔の見える関係づくり」に取り組んでいる例もあり、認知度があがっている。

(2) 子育て世帯への情報発信と連携

- ・子育て支援制度が複雑で、ネットを見ても届いていない親が多い。「口コミ」が最も早いため、LINE 等で情報をポンと投げかけるような仕組みが欲しい。
- ・行政の縦割りで、どこに聞けばいいかわからない。将来的には AI を活用したワンストップの問い合わせ窓口（コールセンター）を検討してはどうか。
- ・情報量が膨大な市役所の情報をどう取舍選択して届けるかは大きな課題。現状の LINE 配信はひとり親に限られている。市政全般は松阪ナビを活用している。

(3) 保育・障がい児支援の現場

- ・障がいのある子の加配等、現場の保育士の負担が増している。確保と育成の状況はどうか。
- ・保育園と子育て支援センターで機能を分担し、発達が気になるお子さんは公立園で手厚く受け入れる体制にトライしている。しかし、保護者の受け入れ（特に父親の心理的抵抗）や、私立園との連携などデリケートな課題も多い。

(4) 若年層・探究学習

- ・高校卒業後の若者が大人と接する機会が少ない。早期離職を防ぐためにも、中学生段階での探究学習を通じた大人との交流が重要。
- ・みえ松阪マラソンのボランティア活動を通じ、地域の大人が子供に「ありがとう」という経験が、自己肯定感を育てているという学校からの声がある。中学校でのボランティア実施は非常に効果的だと感じている。

4. その他

(1) 防災・津波対応

- ・公民館等の公共施設利用時に津波が発生した場合の避難マニュアルが曖昧。不特定多数が集まる施設での訓練と周知が必要ではないか。
- ・ハザードマップに基づいて、必要な地区ではマニュアルが作成されている。避難行動の浸透には温度差がある。地道な啓発活動しかない。

(2) 職員の職場環境（リスペクトレター）

- ・市職員の離職防止の一環として、職場内で感謝を伝える「リスペクトレター」を導入。互いに助け合っていることを言語化する効果は高いと考えている。

5. 次回開催について

日時：11月14日（金） 15:00～